

ご意見の概要及びご意見に対する考え方

	提出意見	提出意見を考慮した結果
1	<p>「地球の温暖化が進んでおり、その主因は Co2 である」というまやかし論に乗った施策ですので、やめるべきです。</p> <p>本件の電動車省エネですが、そもそも電動車の「電気」は他所で発電したものを使っているわけですから、当然無駄も多いわけで、「排ガスのないクリーンな車両」というのも、川上から川下まで見れば、嘘です。</p> <p>世界的な電動車推進は、日本の車産業潰しの一環でもありますから、このような技術開発は程々にしてください。</p>	<p>CO2 が温暖化をもたらしていることはないのご主張が存在することは承知しておりますが、政府としては IPCC をはじめとする科学的調査の結果も踏まえ、人類の経済活動により大気中に排出された CO2 が地球の温暖化を招いている可能性が十分にあると認識しております。そのような認識に基づき、将来的な気候変動のリスクを抑える観点から、2050 年にカーボンニュートラルを実現するべく本プロジェクトを含めて必要な技術開発等に取り組んでまいります。</p> <p>なお、自動車のライフサイクル全体での CO2 排出を削減するため、自動車の電動化の取組に加えて、再生可能エネルギーの導入拡大とコスト低減等を通じたエネルギーの脱炭素化を一体的に進めていきます。</p>
2	<p>本プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画(案)を確認しました。全体としてこの時期まさに国家が取り組むべき有意義なプロジェクトであると感じました。特に P.6?P.9 に記載されたグリーン成長戦略の抜粋には大変重要なポイントが多く取り上げられており、今後の我が国の人々の暮らし方にモビリティがどう貢献して行けるかについて広い視点からアプローチする意図が感じられ期待感を持ちました。特に P.6<今後の取組>の(キ)のパートや、P.8のB)移動時間の活用の革新のパート、C)「動く蓄電池」の社会実装の中の a)、b)のパートの内容はどれも時代の要請にこたえる出色の視点であると思いました。</p> <p>さらに留意すべきこととしては、モビリティがカーボンニュートラルの実現に貢献するためには電動化した車両に</p>	<p>賛同の御意見として承りました。</p>

	<p>どのような電源から電力供給するかが重要であると思います。その意味で最も可能性を感じるのは現在日本郵政とホンダが実証試験をしているような再エネ電源と着脱式バッテリーを組み合わせた分散型・地域循環型エネルギーシステムの実証および実装計画ではないかと思います。これにP.8の「C) 「動く蓄電池」の社会実装」の項目で取り上げられているエネルギーマネジメント技術を組み合わせることにより再エネ電源を最大限生かした真の分散型、地産地消型エネルギーシステムが実現するのではないかと考えます。</p> <p>私自身15年程EVの普及活動に関わり、全国の道の駅に充電インフラを設置運営する事業を行っており、EVを通じた社会貢献には並々ならぬ使命感を持っております。この度の「スマートモビリティ社会の構築」プロジェクトが大きな成果を齎すことを心より願っております。</p>	
3	<p>計画案について拝見させていただきました。</p> <p>全ての項目において欠かせない取り組みであり、世界を見渡しても先進的な取り組みだと感じました。</p> <p>カーボンニュートラルを目指すにあたっては、当然再エネを電源とすることが望ましいわけですが、各企業がPPAなどを行い地産地消をすることができれば理想的かと思います。</p> <p>「蓄電池としてのEV利用」や「EVの防災活用」にも触れて頂いておりますが、ブロックチェーン技術を活用したトレーサビリティを行えるようなシステムであれば、より広範に再エネの地産地消率の向上や防災機能強化にも繋がりが、カーボンニュートラルを目指すにあたってより後押しになるのではないかと感じました。</p>	<p>賛同の御意見として承りました。</p>